
多面的機能支払 メールマガジン
「農村ふるさと保全通信」第115号(2022. 8. 25)
農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力!

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第115号をお届けします。
今回の活動組織紹介では、①郷土米の品種保存のため栽培を継続し、子どもたちと生き物調査や研究成果発表などを行い、地域の活性化に努める組織、②広域化を推進し、土地改良区と連携しながら活動し、共同活動で地域のコミュニケーションの向上にも繋がった組織、③子ども会と連携して水質調査の実施、景観形成のためにシニアクラブと連携して植栽活動を行い、地域環境と文化への理解が深まった組織について紹介します。また、活動組織の広報誌紹介では、地域からの要望の返答や工事実施状況などを掲載することで、地域の方にも活動を理解してもらう様々な工夫をしている事例について紹介します。事務局からは「ディスカバー農山漁村の宝アワード（第9回選定）」に加え、「モニ1000里地調査」の新しい調査地の募集（（公財）日本自然保護協会）についてお知らせします。

第115号の目次

1. 活動組織の紹介

☆クリーンワーク大場おおば（石川県金沢市大場町）☆

☆笹岳環境まもり隊広域協定のだけかんきょう（宮城県涌谷町）☆

☆平川を守る会ひらかわ（茨城県河内町）☆

2. 活動組織の広報誌紹介

☆神門地区農地と水と環境を守る会かんど（島根県出雲市）☆

3. 「ディスカバー農山漁村の宝アワード（第9回選定）」（8月26日受付締切!）

4. 「モニ1000里地調査」の新しい調査地を募集します！（（公財）日本自然保護協会）

かなざわしのおおほまち
■1. 活動組織の活動紹介(1)～グリーンワーク大場(石川県金沢市大場町)～■

～地区概要～

金沢市北部に位置する平地農業地域で活動している。大場町は約160年前にコシヒカリの先祖「大場坊主」が発見された町である。活動範囲は、田 86ha、畑 2ha、農道 10.1km、水路 28.2km である。

～主な取組～

◎地域を象徴する郷土米として「大場坊主」を守り伝えていくため、子どもたちとの共同作業に交付金を活用し、手作業による田植え、虫送り、稲刈りを行っています。伝統農法を伝承するとともに、品種保存のための栽培を継続しています。

◎農地および水路の法面保全・景観向上を目的に、水稻の害虫であるカメムシの発生抑止効果もある「ヒメイワダレ草」のグランドカバー植栽を12年続けています。植栽作業は、農事組合法人、除草作業は地域サロンの女性部が行い、農地法面約300m、水路約1kmを維持管理しています。

◎また、地域の小学校や地域住民、農業者が連携し、課外授業として、生き物調査や研究成果の発表を行うことにより、用水路へのゴミ捨て防止や地域の活性化に繋がっています。

◎今後も地域住民が一体となって本交付金の取組を継続し、「大場坊主」を後世に守り伝えていくとともに、当地域の更なる活性化を目指していきます



大場坊主の紹介看板



伝統農法の伝承



ヒメイワダレ草の植栽活動



公民館での生物調査の発表会

【 グリーンワーク大場 ^{おおほ} 会長 室橋康蔵 】

■ 1. 活動組織の活動紹介(2)

ののだけかんきょう たいこういききょうてい みやぎけんわくやちょう
～ 麓岳環境まもり隊広域協定(宮城県涌谷町)～

～ 地区概要 ～

宮城県北部の大崎平野の東部、涌谷町^{わくや}に位置した水田地帯で、北は北上川水系旧迫川の右岸に接し、南は麓岳山、加護防山の丘陵地帯に挟まれ、東西に細長い地形。平坦な水田地帯で、集落は丘陵地帯に散在している。

活動範囲は、田 532.8ha、水路 135.6 km、農道 29.4 km、ため池 7箇所となっている。

～ 主な取組 ～

◎本組織は平成 19 年度の農地・水・環境保全向上対策から活動を開始し、14 集落を 1 広域協定として活動を実施しています。本交付金の活動は、土地改良区の維持管理事業と類似するところがあり、一体的な取組によって土地改良区が積極的に事務に関わることにより、土地改良区の維持管理負担の軽減につながると考え、広域的な取組を展開しています

◎各集落での保全活動についてはそれぞれ地域の考えに基づき活動を展開しており、運営委員会では土地改良区と連携し、地域全体の維持管理の調整を行っています。

◎資源向上(共同)活動では、農業用施設等の軽微な補修や地元小学生との生き物調査、景観形成活動を実施しています。景観形成作物として、防草シートとシバザクラを組み合わせることで、草刈り作業の省力化が図られました。集落自ら維持管理や補修作業を行うことで、施設を大切に使うようになり、施設の維持管理に大きく貢献するとともに、地域の方々のコミュニケーションの向上にもつながっていると感じています。

◎活動参加者が年々減少傾向にあります。今後は農家、非農家問わず、女性、若者にも積極的に活動へ参加していただくようにしたいと考えています。

ののだけ おおとも としあき
【麓岳環境まもり隊広域協定運営委員会 会長 大友 利明】



活動の様子(シバザクラの植栽)



活動の様子(排水路の草刈り)



活動の様子(写真の説明生きもの調査)



活動の様子(防草シートの敷設)

■ 1. 活動組織の活動紹介(3)～^{ひらかわ}平川を守る会(茨城県河内町)～

～地区概要～

^{かわちまち}本地区は茨城県河内町の東部に位置し、利根川沿いに広がる稲作中心の田園地帯である。活動範囲は田 80ha、畑 5ha、開水路 11km、パイプライン 8km、農道 6km となっている。

～主な取組～

- ◎本組織は、地域のまとまりを強固にするため、「豊かな街平川」を目指して平成 27 年度に組織を設立し、活動を開始しました。水路や農道等の保全管理活動に地域をあげて取り組んでおり、参加率は 7 割を超え、自走式草刈機の導入などにより作業の効率化を図っています。
- ◎子ども会と連携した水質調査では、水路と水道水を比較するなど、子供達への環境教育を行っています。また、シニアクラブと連携した植栽活動や地区内に 70 本ある桜並木の維持管理により、地域の景観形成を行っています。
- ◎「自分たちで出来ることは自分でやる」を念頭に地区内にいる約 10 人の技術員の協力により、積極的に直営施工を実施しています。また、地域で話し合うことで、地域の施設に対する意識向上につながっています。
- ◎伝統行事の御奉射(オビシャ)に使用する社の制作や稲わら文化の伝承を行う平川保存会、子ども会と連携し、^{まこも}真菰の工芸品(七夕馬)を制作し、伝統行事の七夕祭りを再現しました。
- ◎広報看板設置やホームページ、ブログ開設により積極的に広報活動も行っています。
- ◎最後に、活動を通して、子供を含む地域住民の環境や文化への関心の高まり、地域のまとまりが一層強固になりました。今後も「豊かな街平川」を目指し、活動してまいります。



技術員による農道碎石施工



子ども会との水質調査



植栽活動と広報看板



七夕祭りの再現風景

【平川を守る会 会長 篠田 章成】

■2. 活動組織の広報誌紹介

～^{かんと}神門地区農地と水と環境を守る会(島根県出雲市)^{いずも}～■

— 活動通信 —

☆広報誌の発行頻度、発行対象、配布方法☆

本組織の広報誌は、平成21年度に創刊して以来、年6回偶数月に発行し続け、発行回数は80回を超えました。主に組織の副会長が写真撮影、記事を作成され、会長や事務局長が内容の確認を行ったうえで、組織内にある15支部^{※1}を通して、66町内会に配布(回覧)し、農家・非農家を問わず、全戸に幅広く回覧しています。

※1 神門地区では66町内会を15支部に分けている。

☆広報誌発行の経緯☆

多面の活動に非農家を含む多くの参加者がいるため、活動組織の活動情報を地域に届けるため、発行を開始しました。

☆広報誌の内容☆

遊休農地未然防止のための花桃の植栽や、園児や小学生とのヒマワリの植栽活動、長寿命化の工事予定、進捗状況や実績の報告、共同活動の作業の様子、総会などの情報提供等を掲載しています。また、多くの農家・非農家が一体となって取り組む活動や、用排水施設の補修等地域からの要望などに対し、優先場所を検討し、その返答を兼ねて施工予定箇所や工事実施状況などを広報誌に掲載することで、地域の方にも活動を理解してもらうとともに、さらに興味を持ってもらえるよう意識して作成しています。コロナ禍が落ち着けば、先進地への見学や、ヒマワリの植栽活動の再開を予定しているので、その内容を広報誌へ掲載していきたいと考えています。

☆広報誌をたくさんの方に読んでもらう工夫☆

A4用紙1枚(片面)の中にコンパクトにまとめて作成しています。写真などはカラー印刷のほうが分かりやすいですが、経費節減のために町内会への配布は白黒印刷にしています。白黒でも読みやすくするために、書体を変え、文字を最小限にとどめるなどの工夫をしています。文字だけでは伝わりにくいこともあるので、メインの写真を大きくすることで、より多くの方の目にとまりやすく、飽きさせない努力をしています。

☆広報誌の効果☆

本組織は農業者以外の構成員が2／3を占めており、活動組織を設立する際に神門^{かんと}地区全体で活動に取り組むことで合意しています。構成員が1,000人を超える大きな活動組織ですが、活動に反対する声はありませんでした。更に活動への理解と活動への参加をしていただくために、平成21年度から広報誌による情報発信を行うことで、地域の共同活動の定着に繋がり、組織のメンバー同士とをつなぐ架け橋になっていると考えています。

ポイント1 活動写真を多く使用し、伝わりやすさを重視!

文字の書体を変えたり、タイトルを囲ったりすることで、活動内容を分かりやすく伝えていきます。また、文字数は最小限にし、多くの写真を取り入れることで、注目してもらいやすくしています。

ポイント2 活動結果を情報共有

農家・非農家総勢 340 名がヒマワリを植栽する様子を取り上げました。参加者には活動を振り返ってもらい、参加できなかった方にも興味を持ってもらうことで、今後も多くの方が活動に積極的に参加してもらえるように工夫しています。

神門地区農地と水と環境を守る会

連絡先 神門コミュニティセンター 出雲市知井宮町 801-1
TEL (0853)21-1038 FAX (0853) 21-1056

活動通信

令和3年4月号

4月になり、令和3年度が始まりました。

当会の活動も、土木委員会と共に4月4日(日)神門地区内一斉清掃を実施しました。

新年度に入り早速、神門地区一斉清掃が行われましたが、当日は、出雲市長選挙、市議会議員選挙の告示日と重なり大変お忙しい中、多くの皆様に参加いただき、雨天にも関わらず用排水路・道路の塚増雑草に汗を流して頂き大変うれしくなりました、ご苦労様でした。



花畑の花が咲きました。

平成28年から活動始めた『花畑の聖』創りも4年過ぎてかなり成長した樹木も見られ3月末から、赤・白・桃色のかわいい花が咲きました。有害虫の被害にあたり枯れた樹木もあり補植を行っています。



お知らせ

コロナウイルス感染防止のため、3月13日(土)に開催した支部長・町内責任者合同会議は、会場にて、資料手渡のみとさせて頂きました。

又、5月29日(土)の総会も昨年同様に書面総会の方法を採ることと致しました。

向上活動は、前年度からの継続工事と各地域からの要望箇所の新築診断を行い、緊急性等を踏まえ、長寿命化の補修・更新など行いたいと思います。

神門地区農地と水と環境を守る会

連絡先 神門コミュニティセンター 出雲市知井宮町 801-1
TEL (0853)21-1038 FAX (0853)21-1056

活動通信

令和元年6月号

令和元年度の総会を開催しました

8月18日(土)神門コミュニティセンターにて、令和元年度の総会を開催しました。当日は、本村孝幸町議兼会長、新正雄、伊達三画町議兼副会長にご臨席頂き、役員、地区担当者多数の出席のもと、平成30年度活動報告、決算報告説明、令和元年度活動計画、予算案を説明し、全会一致で承認を頂きました。

本年度も新たに改善5か年の活動も申請していますが、神門地区は住宅地、商業施設用地の集積により農用地の減少が著しく、とり最近の交付金も100万円/年(共同・向上)が約100万円の減額となる見込みで今後さらに交付金の減額も予想され、全員で知恵を出し合い地区の整備に努めたいと思います。



ひまわりの植まきを行いました

今年も3月22日(水)下志町上庄地区の休耕田にひまわりの植まきをしました。

当日は、神門保育園-神門第一保育園-神門幼稚園-神門小学校-河内中学校の子供たち、父兄、先方、地区の各種協力団体、当会役員約340名で朝早くから約1時間の時間を費やしました。特に今年は、正月の総会前夜に実施された土曜さきで準備された旗陣大観覧に合わせ、ひまわりの植まきと出稼プロジェクト活動とを兼ねて、土木委員会の一環で保育園、幼稚園、小学校、中学校で育て、秋にはこの花より採取した種を播きつけてプロジェクト団体にお返しする予定です。



ポイント3 コロナ禍でも継続的に情報発信

コロナ禍で中止となる活動もある中、H21年度創刊よりほぼ隔月で発行し続け、各活動の成果や現状報告、予定等を情報共有することで、組織のメンバーが活動全体を把握しやすくしています。

■3. 「ディスカバー農山漁村の宝アワード(第9回選定)」(8月26日受付締切!)■

114号でもお知らせいたしました、「ディスカバー農山漁村の宝アワード(第9回選定)」の募集締め切りは8月26日となっております。いよいよ締切間近です。応募しようか迷っている方がおられれば、是非ご応募ください!

「ディスカバー農山漁村の宝」は農山漁村の活性化に取り組む優良事例を選定・表彰し、全国に発信する取組です。選ばれた地区(者)は、選定証授与式等の式典に招待されます。

募集は、「団体部門」と「個人部門」に分けて受け付けています。過去には**多面的機能支払交付金**を利用している活動組織も選定されています。団体部門と個人部門との重複応募も可能ですので、ぜひ、ご応募ください!



▽応募期間▽

令和4年度8月26日(金)まで

▽詳細・応募方法▽

ディスカバー農山漁村の宝特設ホームページ

<https://www.discovermuranotakara.com/>

【農林水産省 都市農村交流課】

■4. 里山の自然を調べる全国調査「モニ 1000 里地調査」の新しい調査地を募集します！

（（公財）日本自然保護協会）■

モニタリングサイト 1000 里地調査は 100 年の長期にわたり里山の変化を早期に把握し、生物多様性の保全施策に役立てるための環境省と日本自然保護協会の共同事業です。現在全国約 230 ヶ所の調査地で毎年 1300 人ももの市民の方が参加されています。

今回、2023 年度からの 5 年間、里地調査にボランティアでご協力いただける調査地を新たに募集します。調査は植物やカエル、ホタルなど 7 項目から好きな項目を選べます。

身近な里山環境を見守ってきた皆さんのお力をぜひお貸し下さい。
ご応募をお待ちしています。



長野県飯田市の棚田

新規調査地募集に関する詳細はこちら

<https://www.nacsj.or.jp/moni/2022/07/30255/>

募集に関する説明会の動画も公開中

<https://www.nacsj.or.jp/moni/2022/05/30204/>

<問い合わせ先>

（公財）日本自然保護協会

モニ 1000 里地調査事務局（担当：福田・小林・藤田）

TEL：03-3553-4101

Eメール：moni1000satochi@nacsj.or.jp

■ 編集後記 ■

読者の皆様こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。8月に入り、日差しがジリジリと照り付け、先月よりも一層強く感じています。みなさま、熱中症には大変気をつけましょう！

さて、私事ですが、つくば市に研修に行きまして。田んぼでの減水深を測定する実験や土の硬度や土中の水分量を測ったりしました。初めて田んぼに長靴を履いて入ったのですが、一歩踏み出すのも一苦労で、沈んでいく足を引き抜くのに精一杯でした。足が抜けずにそのままダイブしてしまう者や悠々と歩き進んで行く者、悲鳴を上げる者など、様々な同期と共に研修に励みました。歩くので一苦労するうえに炎天下での作業など、本当に農家の方へ尊敬いたします。

この暑さに負けず、農作物が成長して欲しいです！それでは次号もお楽しみに！



減水深調査を行った水田

◇多面的機能支払メールマガジン「農村ふるさと保全通信」バックナンバー◇

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html

バックナンバーはこちらの二次元バーコードからご覧いただけます！→



◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。

活動内容の紹介や広報の発信などに、どんどんご活用ください！！

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen_siharai-31.pdf



◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）等に関するメールをお待ちしております！！

tamen_ml@maff.go.jp

-----【発行】-----

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省農村振興局整備部農地資源課
多面的機能支払推進室（担当：近藤、藤原）
TEL：03-3502-8111（内線 5493）